

東邦大学医療センター大森病院臨床研修プログラム

大森・選択専攻科目

放射線科（4週以上）

1 研修プログラムの目的と特徴

画像診断の基本と適切な画像検査の選択法を修得する。
放射線治療の適応と他治療との相違を修得する。

2 プログラム管理運営体制

放射線医学講座 臨床研修委員会

3 教育プログラム

3-1 研修期間と研修医配置予定

選択専攻での研修期間は4週以上である。
東邦大学医療センター大森病院放射線科に配置される。

3-2 一般目標（GIO）

臨床研修指導医の下で放射線診断・治療を担当し、画像診断の基礎・適切な画像診断法の選択・オーダーの基本を修得する。放射線治療に関しては、基本的な知識を習得し、癌治療における放射線治療の適応・副作用、およびその対策、実際の治療計画の方法を理解する。

3-3-1 行動目標（SBOs）

<4~12週以上>

- 1) 画像診断における利益、不利益や画像の成り立ちの観点から、適切な検査法を挙げることができる。
- 2) 検査の前処置や禁忌例を患者の状態に応じて選択することができる。
- 3) 鑑別診断に必要な検査を挙げることができる。
- 4) 放射線治療の適応、副作用、およびその対策を理解し、治療計画、診察を行うことができる。

<16~36週以上>

- 1) 画像診断における利益、不利益や画像の成り立ちの観点から、適切な検査法を挙げることができる。
- 2) 検査の前処置や禁忌例を患者の状態に応じて選択することができる。
- 3) 鑑別診断に必要な検査を挙げることができる。
- 4) 放射線治療の適応、副作用、およびその対策を理解し、治療計画、診察を行うことができる。

3-3-2-A 経験すべき診察法・検査・手技

<4~12週以上>

- 1 一般撮影
- 2 造影検査
- 3 X線CT
- 4 MRI
- 5 血管造影
- 6 核医学検査
- 7 放射線治療

<16～36週以上>

- 1 一般撮影（特殊撮影を含む）
- 2 造影検査（消化管、尿路造影）
- 3 X線CT
- 4 MRI（特殊撮像を含む）
- 5 血管造影
- 6 核医学検査（検査の適応、評価法、読影）
- 7 放射線治療（治療計画、線量分布）

3-3-2-B 経験すべき画像の読影ポイントおよび放射線治療計画

- 1 画像の異常部位を指摘し、異常所見を述べることができる。
- 2 画像所見から診断・鑑別診断を挙げ、鑑別診断に必要な検査を挙げるができる。
- 3 画像診断報告書を臨床研修指導医の下に作成できる。
- 4 造影検査の適応・禁忌・注意点・前処置を挙げるができる。
- 5 放射線治療の適応の判断・照射法を選択できる。

3-3-2-C 特定医療現場の経験

CT, MRI, 血管造影などの検査室や、核医学検査室、放射線治療室といった通常あまり立ち入ることの少ない医療現場を経験し、放射線の被ばくや高磁場環境などのリスクについても実地で学んでいく。

3-4-1 学習方略（LS）

- 1) 画像診断業務
 - ・画像検査報告書（単純X線写真、CT, MRI、核医学）作成
 - ・造影検査
- 2) 放射線治療業務
 - ・治療計画を簡単な例で実施し、治療中の診療を行う
- 3) カンファレンス・勉強会
 - ・泌尿器科合同カンファレンス（月1回、月曜日）
泌尿器科と合同で、泌尿器科症例の画像診断についての検討会を行う
 - ・婦人科合同カンファレンス（月1回、火曜日）

婦人科と合同で、婦人科症例の画像診断についての検討会を行う

- 呼吸器科合同カンファレンス（毎週火曜日）

呼吸器内科と合同で、呼吸器悪性腫瘍症例の放射線治療についての検討会を行う

- 耳鼻咽喉科合同カンファレンス（月1回、月曜日）

耳鼻咽喉科と合同で、頭頸部悪性腫瘍症例の放射線治療についての検討会を行う

- 上部消化管がんボード（毎週水曜日）

消化器内科、消化器外科と合同で、上部消化管悪性腫瘍症例の治療について検討する

- 画像診断症例検討会（隔週月曜日）

教育的な症例の画像診断について検討会を行う。医局員が交代で症例提示を行う。

- 抄読会（隔週月曜日）

教育的な論文の抄読会を行う。医局員が交代で説明を行う。

3-4-2 週間スケジュール

時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
9:00~	CT 検査	核医学検査	MRI 検査	CT 検査	核医学検査	放射線治療 計画
12:00~	症例検討会 抄読会					
13:00~	MRI 検査	造影検査	CT 検査	MRI 検査	放射線治療 外来	
	カンファレ ンス	カンファレ ンス	がんサ ー ボード			

3-5 評価（EV）

報告書の作成や検査への参加、カンファレンスや勉強会への出席、放射線治療計画作成が評価基準となる。

口頭試問（画像の読影）および医局内の発表会で評価を行う。

評価基準

<4~12週以上>

- 1 画像検査報告書（単純X線写真、CT、MRI）作成 50件以上
- 2 造影検査 10件以上
- 3 教育講習（30分~1時間） 3回以上出席
- 4 治療計画は簡単な例で1~2例実施し、治療中の診療を行う

<16~20週以上>

- 1 画像検査報告書（単純X線写真、CT、MRI、核医学）作成 150件以上
- 2 造影検査 50件以上
- 3 教育講習（30分~1時間） 5回以上出席
- 4 治療計画は比較的簡単な例で3~4例実施し、治療中の診療を行う

<24~36週以上>

- 1 画像検査報告書（単純 X 線写真, CT, MRI, 核医学）作成 500 件以上
- 2 造影検査 100 件以上
- 3 教育講習（30 分～1 時間） 10 回以上出席
- 4 治療計画は比較的簡単な例で 5～10 例実施し、治療中の診察を行う

3-6-1 指導体制

本プログラムの最終的な指導責任は、東邦大学医療センター大森病院放射線科の指導責任者にある。
全般の指導体制は放射線科医師による。

3-6-2 臨床研修指導医

臨床研修指導医責任者	白神 伸之
臨床研修指導医	寺原 敦朗
臨床研修指導医	新部 譲
臨床研修指導医	水村 直
臨床研修指導医	小林 正周
臨床研修指導医	芝田 紫野
臨床研修指導医	鈴木 賢一
臨床研修指導医	田村 謙太郎

3-6-3 協力施設